



# 名古屋いのちの電話だより

相談電話〈052〉971-4343  
くろしなや いっしょに し み じ み

No. 6

1986.8.

発行責任者 相馬 信夫

昭和二十八年春、私は中日新聞に就職してすぐ社会部に配属となった。

その当時、私の最も嫌っていたのは、電話で送られてくる原稿を取ることであった。第一、電話で話すのは生まれて初めての経験だったし、いままで聞いたこともない法律用語や新聞独特の「日本語」が感度の極めて悪い受話器を伝わってきたからだ。

そういうふうだから、原稿を電

話の向うから吹き込

む先輩は、私がオドオドして取るさまに、余程腹が立ったとみえて、よく怒鳴った。

私は保守的な人間

で、できることなら

電話でなく面と向って話すことを

大切にしてきた。文明の利器からできるだけ遠くにいたいと思っていた。社会部のかけ出し記者時代の電話アレルギーが原因ではない。

本当に「腹を割って」話すには、電氣の力では駄目であると信じてきた。

ところがである。ごく最近、こんなことがあった。夜九時ごろ。

私の書斎の机の電話が鳴った。受話器をとると、知人の奥さんの悲

しげな声。「こんなこと——言いたくないんですけど——私の主人が年若い子を連れて、西沢さんと

会ったはずですが——どんな人でした——」私はびっくりした。あの真面目な人がどうして、と思うとすぐに答えが出なかった。

「何も変わったところはないです。すっかりした女の子で——」といったところで、もう一つ電話が入ってきた。あとでかけるからと、人生相談を——まず切っ

## キス・オン・ザ・フォン

東海テレビニュースキャスター

西沢 信正

て、次の電話をキャッチした。

その電話は事務的に終わって、先の知人の奥さんにダイヤルしたつもりだった。それがどういうわけか、奥さんの父親のところ間違っ

てかかってしまった。そして父親と「娘夫婦の不仲」について長時間、話したあと奥さんにかけていたからだ、正直に説明したら、不気嫌そうな声で「また考え

てみます——」といって、ブツン

と電話が切れた。

そして三時間ほど経って、夜中にまた机の電話が鳴った。「西沢さん——」奥さんの涙声である。

「ありがとうございませう。私、主人とすべてを語り合いました。三年間心にひっかかっていたものを流すことができました。これから二人は信頼して生きます——」涙にむせんだ声が続き、そして夫も電話の向うで愛を誓った。もし、これが電話でなかったら、沈黙の時間がなくて顔を見合せていたら、なんともバツが悪かったりして、こうはいかなかったらうと思った。そして、

ポピュラー・ソングの「キス・オン・ザ・フォン」は可能なんだと自分に言い聞かせた。電話だからこそ、いのちがなくなるんだとの強い信念が湧いてきたのである。

電話相談員の仕事の重さをあらためて認識し、そのバック・アップに力を入れたいと思う。

(理事・財務委員)



# 開局一周年を迎えて

相馬 信夫

多くの方々のお祈りとご協力のお陰で、「名古屋いのちの電話」が開局一周年を無事迎えることが出来たことを皆様と共に感謝し、心からお祝い申し上げます。

特に、開局前から、多くの犠牲と努力を払って厳しい訓練を受けて開局に備えて下さった相談員のご苦労と熱意を思うと全く頭が下がる思いがいたします。又この訓練を指導していただいた諸先生のご苦労に対しても感謝の言葉がない程心からお礼申し上げたいと思います。

またこれらすべてを支える運営資金をまかなって下さる賛助会員、寄付者の皆様にも改めてこの機会に心から御礼申し上げたいと思います。

またご理解を示し、いろいろな便宜やご援助を賜った県、市、N T T、その他の方々にも感謝を忘れることは出来ません。

一周年を迎えて、まず心に浮かぶことは、一周年を無事過せたよろこびと、協力して下さったすべての方々への感謝であります。然し、より切実に感じられる事は、この、「いのちの電話」を利用し

て下さる方々のことであります。

我々の努力がごの方々のために、ほんとうに役立ち、一人でも多くの方の必要に応えることが出来たであろうかと言ふことであります。

旧約聖書の出エジプト記の中で神はモーゼに「私は、私の民、イスラエルの苦しみを、その叫びを聞いた。私はこの民を救うために下って来た」と言われています。これが旧約聖書における神の救いの業の発端でありました。

「いのちの電話」を通して聞かれる言葉は、現代社会が人々に負わせている重荷の下での弱い立場の人々の「叫び」であると言ふことが出来ると思います。

「いのちの電話」の務めは、神がイスラエルの民の叫びを受け止められたように、現代の人々の叫びを受けとめることではないかと思ひます。

財政的にも弱く、機構としても未熟な、「名古屋いのちの電話」がこの使命を果すことが出来るために、二年目にも、皆様の旧倍のご支援とご協力を心からお願ひする次第です。

(理事長)

## 運営委員会報告

塚田 道生

運営委員会は月一回は定例の委員会を開き、色々な問題を相談し、作業を分担して行なっています。

この委員会は理事会発足前の準備委員会から仕事を引継ぎ、昨年ハチャリティ・コンサートや開局記念式典、そして新しい場所への引越しのための準備など大きな事業が重なって、毎回夜十時、十一時まで相談し、あわただしく一年が経ってしまいました。相談員の熱心な活動を見ていますと、運営委員の人たちも、この活動を支えるボランティアとして、一層交流、対話を密にして、より良い組織と運営を心掛けなければならぬという思いを強くしています。運営委員は現在十一名で構成され、その中の三人は相談員でもありません。この方々には負担が重いとありますが、相談員の意見を反映していただく良い役割を果していただいています。

広報活動としては機関紙の編集、発行を主として行い、昨年度は3、4、5号を発行しました。ボランティア部担当委員を中心に電話相談員との連絡、調整、親

睦を図り、その中から貴重な意見が出され、全体の運営に反映するようにしています。

その他、開局記念式典やコンサート、引越しなど大きな全体的な事業がある時には、実行委員を指名して事業が円滑に進められるように、企画と実施に当たっています。

「名古屋いのちの電話」も、開局一周年を迎え、新しい立派な場所が与えられ、少しずつ軌道に乗っておりますが、内容的にはまだまだこれから難問がひかえています。特に、最大の目標である二四時間体制を整えることと、相談員の人たちとの意志疎通をもっとスムーズにすることを考えねばなりません。また、委員会のメンバーも理事の方々も、大切ないのちを支えるボランティアの一員として、この事業の内容や人と人との対話の重要さ、いのちの大切さなどについて研修を積む必要があり、秋には研修会を予定しています。「いのちの電話」は賛助会員も含めた皆で支える事業です。遠慮なくご意見をお寄せ下さい。

(運営委員長)

# 財務委員会報告

## 木 本 精 之 助

財務委員会の任務は、「いのちの電話」の働きが円滑に運営されて、協力者、関係者の願いが充分に実現されるための、経済的な側面を整えていくことにあります。

従って、開局第一年度の財務委員会の課題は、

- ①必要とする経費をいかにみたくしていくか、
  - ②法人設立のために基金を如何に積み立てるか、
- の二点にありました。

一九八五年度の決算は別記報告の通りで、皆さんのお支えにより何とか必要な経費を賄うことができ、わずかではあります、法人設立準備の為に積立ても実施することが出来ました。大きな感謝をおぼえます。

問題は第二年度の一九八六年度であります。電話相談の働きを整えて本格的な前進をはかるために事務所の移転が実施され、電話の増設、相談員の増強、相談時間帯の延長等が積極的に計画されています。予算規模の増大により、資金調達の面からは、かなりの困難が予測されるところであります。この面からも、法人化の早期実現

が期待される訳でありまして、財務委員会では、目下のところ「協賛、賛助の輪」をいかに拡大するかに、時間の多くを割いているところであります。

現在五〇〇名近い賛助会員を与えられていますことは大きな感謝であります。この「いのちの電話」の理解者を更に拡大していく最大の課題のために、さまざまの機会に、種々の方法で「いのちの電話」をPRしたいものです。

開局一年目を記念して、今後は毎年七月には賛助会員増強のキャンペーンを実施することを提案いたしました。会社法人筋よりの支援を頂くことも、息の長い計画として実現していきたいものと考えています。

いのちの電話は、政治上の立場や宗教上の信条の相異等を超えて、万人の善意に訴える人道的な運動となりうる運動であります。新しい協力者を獲得するために、絶えず考えを集めて、実行にうつしていきたいと願っています。積極的な提言を心より歓迎いたします。

(財務委員長)

### 1985年度会計予算および決算報告

科 目	入 部	
	予 算	決 算
賛助会費	2,600,000	2,322,000
賛助会費(A)	1,500,000	1,250,000
賛助会費(B)	500,000	601,000
賛助会費(C)	600,000	471,000
寄付金	3,000,000	3,726,439
個人	1,300,000	1,611,800
団体	1,700,000	2,114,639
年末募金	3,850,000	3,059,760
助成金	500,000	350,000
特別事業収益	1,000,000	1,160,555
講座受講料	2,100,000	1,760,000
受取利息	50,000	52,680
雑収入	50,000	26,765
前年度繰越金		190,948
合 計	13,150,000	12,649,147

科 目	出 部	
	予 算	決 算
事業費	2,800,000	3,298,861
教育・訓練	2,100,000	2,268,995
広報	400,000	417,810
調査・研究	100,000	155,720
渉外	200,000	251,240
開局式典費	0	205,096
事務費	1,520,000	1,853,015
通信費	500,000	734,490
印刷費	600,000	606,590
事務用品費	120,000	370,683
会議費	200,000	44,862
旅費・交通費	100,000	96,390
人件費	5,000,000	4,846,408
給与	4,260,000	4,400,986
通勤費	400,000	359,348
社会保険料	250,000	56,074
雑給	90,000	30,000
管理費	1,530,000	2,229,651
借入金料	150,000	194,000
車庫料	180,000	174,950
光熱費	200,000	29,950
電話料	150,000	242,685
消耗品	130,000	281,725
消耗品	120,000	0
除給品	100,000	0
備蓄	500,000	1,306,341
雑償却費	100,000	101,711
減価償却費	100,000	0
予備費	100,000	0
法人化基金	2,000,000	300,000
次年度繰越金		19,501
支出総計	13,150,000	12,649,147

# 訓練委員会報告

島田麗子

訓練委員会は、85年度、四月より中野郁子さんを訓練担当主事に迎え、訓練プログラムの充実を図ることができたことを感謝している。84年春スタートした、相談員養成講座の第一期一次生55名の訓練が85年六月に終了し、七月一日の開局にあたって研修生として相談電話の窓口に立ち、重要な役割を担った。続いて九月には訓練を終了した二次生47名が戦列に参加した。名古屋ではじめての開局という未経験な手さぐり状況の「いのちの電話」の最前列でこれらのまだ認定前のボランティア相談員が本当によくがんばって下さった。この研修生のスーパーバイズが今年度の大きな課題であったが、幸い22名の専門家の先生方のご協力をえて、相談電話での自分のあり方について一人一人が個別に指導と助言をうける体制がとられた。同時にボランティアの自主的な研修の場として月一回の継続訓練グループ（10グループ）も秋から発足した。そして86年四月には第一期生85名が二年の訓練の後「いのちの電話相談員」としての認定をうけ正式に実務につくこととなった。

第二期相談員養成講座は85年九月より開始し、41名が目下訓練中

であり、更に第三期相談員養成講座を今年九月から参加者67名で始める。

非常に忙しい訓練プログラム推進のため85年十一月より青木明子さんがパートスタッフとして加わり、四月からは主事として採用がきまり、今後の働きに期待されている。

それぞれ専門の分野と知識をもつ6名の訓練委員に加え、人間関係基礎訓練スタッフ、相談実習指導者、スーパーバイザー、継続訓練リーダー、講座担当の諸先生方計55名の専門家のご協力とご指導がえられたことは大きな賜と感謝している。

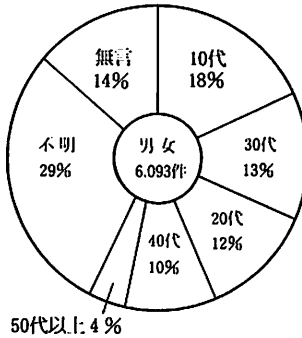
85年七月一日から86年三月三十一日までの相談件数は約六〇〇〇件、女性からの相談の第1位は夫婦問題、男性からの相談の第1位は性、という統計がでているが、10代の相談が最も多く、20代と合わせて約3割を若い人々が占めることは注目に価する。自殺を訴える相談は全体の5%、やはり若年層に多いことと合せて、今後相談員の訓練についても、問題に対応しうる研究や学習が求められる。又認定をうけた相談員の自己研修の場とその組織づくりが必要と思われる。

(訓練委員長)

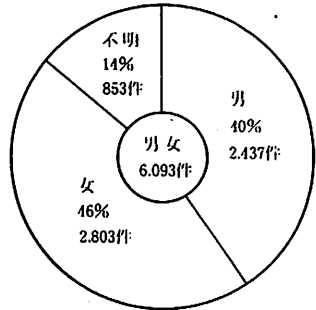
〔問題別傾向・男女〕



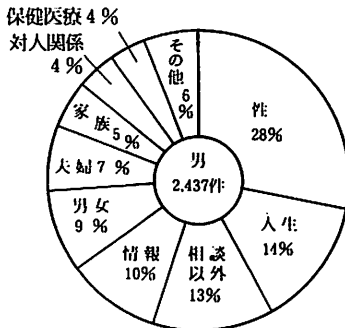
〔年代別傾向〕



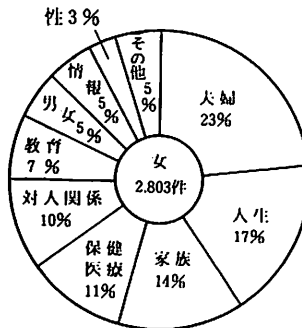
〔受信相談件数〕



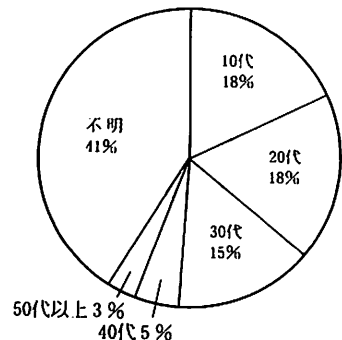
〔問題別傾向・男〕



〔問題別傾向・女〕



〔自殺を訴えた相談の年代別傾向〕



# 「一九八五年度のあゆみ」

- (一九八五年)
- 5月2日 開局記念チャリティ・コンサート、神野明ピアノリサイタル(於・愛知文化講堂)
- 6月4日 相談電話実施についてのオリエンテーション
- 6月14日 第一回理事会、相馬信夫理事長就任
- 6月29日 開局記念式典(於・名古屋国際センター)
- 7月1日 開局(相談電話開始)
- 9月19日 第一回運営委員会、塚田道生運営委員長・山下政一副委員長就任(以後随時開催)
- 9月20日 第一回財務委員会、木本精之助財務委員長就任(以後随時開催)
- 9月24日 第二期電話相談員養成講座開始
- 10月12日 ボランティア部発足(記録整理係・担当編成係・資源台帳係・ボランティア新関係・連絡調整係の活動開始)
- 10月14日 第一期継続訓練開始
- 10月16日 第二回理事会
- 11月7日～9日 日本いのちの電話連盟全国研修会(於・松島)に参加

- 11月13日 スーパーバイザー意見交換会
- 12月21日 クリスマス会(一九八六年)
- 1月13日 三委員長会談(運営・財務・訓練)
- 1月29日 第三回理事会
- 3月6日 第一回ボランティア部リーダー会(以後随時開催)
- 3月19日 仲間通信「もしもし」第一号発行
- 3月25日 電話相談員認定委員会

## ◇第四回理事会報告◇

日時 五月十四日午前十時～正午  
場所 名古屋いのちの電話事務局  
出席 理事十四名中八名  
諸報告を承認の後、協議に移り次の通り可決・承認しました。  
一 六月十三日開催の連盟理事会への代表者の選出を運営委員会に付託すること。  
二 開局一周年・移転記念式典の企画・実施についての検討を運営委員会に付託すること。  
三 中堀理事が本年八月より一年間在外研究のため休職することを確認。

# 一九八六年度の事業

- 4月8日 第一期電話相談員認定式、講演・斎藤友紀雄氏
- 5月10日 第二回チャリティ・コンサート、津田能人パイプオルガンリサイタル
- 5月14日 第四回理事会
- 5月24日 名古屋いのちの電話センター移転(聖霊病院マリア館からみこころセンタービルへ)
- 5月25日 新センターでの活動開始
- 6月13日 日本いのちの電話連盟に正式加盟(連盟の定例理事会にて承認)
- 6月25日 近畿地区統計担当委員・ティン(於・当センター)
- 7月5日 開局一周年・移転記念式典
- 9月1日 ボランティア・フォーラム(全体交流会)
- 9月4日 第三期電話相談員養成講座開始
- 9月19日～21日 日本いのちの電話連盟全国研修会(於・横浜)
- 10月15日 第五回理事会
- 10月18日 理事・委員研修会、講師・林霊法氏
- 12月20日 クリスマス会

## 1986年度予算

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
賛助会費	3,500,000	事業費	3,370,000
賛助会員(A)	1,600,000	教育・訓練費	2,500,000
賛助会員(B)	1,000,000	法調査・研究費	500,000
賛助会員(C)	900,000	渉外費	120,000
寄付金	5,500,000	移転式典費	200,000
個人	2,000,000	事務費	50,000
団体	3,500,000	通信費	1,640,000
年末募金	3,000,000	通信用品費	700,000
助成金	1,000,000	事務用品費	600,000
特別事業収益	1,000,000	事務用品費	200,000
講座受講料	2,400,000	旅費・交通費	60,000
受取利息	50,000	旅費・交通費	80,000
雑収入	70,000	人件費	7,120,000
		給与	6,440,000
		通勤費	450,000
		社会保険料	200,000
		雑給	30,000
		管理費	2,830,000
		共益費	400,000
		車庫費	180,000
		光熱費	550,000
		電話料	240,000
		消耗品費	360,000
		保険料	100,000
		備品費	0
		雑費	1,000,000
		雑償費	100,000
		減価償却費	100,000
		予備費	100,000
		法人化基金	1,000,000
		連盟分担金	260,000
収入総計	16,520,000	支出総計	16,520,000

# 移転てんまつ記

青木 明子

五月二十四日と移転の日が決まっても、どう休まず電話を受けていくか、移転先の電話番号をより多くの人に知っていただくにはどうしたら良いかという事に四苦八苦で、直前になっても具体的な事柄は何も手付かずの状態でした。

そこで登場したのが「いのちの電話引越便」。関係者・関係者外・老若男女(?)と集まった人延50人。手作りのお弁当や差し入れのおまけ付きです。そしてついには俄かペンキ屋さんまで出てくる始末。新センターで書棚が足りないと不要になる靴箱を拭いてペンキ塗りを始めたのはいいのですが、このペンキ塗り、塗れば塗る程醜くなるという行き詰った状況に陥ってしまったのです。運良く丁度そこに通じかかった訓練の先生が、その日は「電話線で継ぐ関係」でなく、「ペンキと刷毛の関係」をご伝授。その後その本棚が特別な意味を持ったものとなったことはいまでもありません。

準備不足、行き当たりばったりの引越しではありましたが、大勢のパワーで「いのちの電話引越便」なかなかいいなと思わせる移転騒動でした。

(主事)

# チャリティコンサート大成功!!

長

井

潤



五月十日(出)午後七時、第二回チャリティコンサート、津田能人パイプオルガンコンサートが、カトリック五反城教会で開催されました。

パイプオルガン、そして宗教曲

という、一般には馴染みのまだ浅いコンサートで、果して切符が売り捌けるだろうかと心配をしましたが、さすが「いのちの電話」のパワー、輪の強さ、立見が出たらどうしようかとの心配をしなければならぬほどでした。

ブクステフーデからバッハ、フランクと一時間半にわたり、このために京都からお招きした津田先生の名演奏に、六百人という五反城教会始めて以来の聴衆は「天使の声」と言われるパイプオルガンの荘厳な音色に、心豊かな時を過ごすことが出来ました。

正直言って予想以上の大成功でしたが、この成功の裏には、準備やチケット売捌きを始め、当日のお手伝いに至るまでの多くの方々のご支援とご協力の賜物あればこそと、力づけられました事を、感謝をもってご報告させていただきます。

本当に有難うございました。

ところで来年度のチャリティコンサートですが……?

(運営委員)

## チャリティコンサート会計報告

収 入 の 部		支 出 の 部	
チケット売上 (前売)	1,123,500円	五反城教会 (使用料及び調律料)	68,000円
” (当日)	63,000	謝礼等	115,000
カンパ	12,000	チラシ (10,000枚)	53,500
広告収入 (27社)	295,000	ポスター (200枚)	22,000
		チケット (1,200枚)	15,000
		プログラム (750冊)	205,000
		写真代	10,100
		雑費	13,155
		花束代	6,000
合 計	1,493,500	合 計	507,755

(純益) 1,493,500円 - 507,755円 = 985,745円

# 開局一周年・移転記念式典開かる

植 田 望

去る七月五日(土)午後、みこころセンターホールに関係者八十名が出席し、「名古屋いのちの電話」開局一周年・移転記念式典が開かれました。

来賓に矢野昌氏(名古屋市教育局委員会)水田弘氏(名古屋市社会福祉協議会)黒田徹之氏(関西いのちの電話)をお迎えし、お祝いの言葉をいただいた。その中で黒田氏は「名古屋いのちの電話」の目標は一日も早く二十四時間体制にすることと社会的財政的基盤を確立するための社会福祉法人を設立すること、そのために必要な相談員の養成並びに経済的な支えを確保することの大切さを強調された。昨年七月、聖霊病院マリヤ館で開局以来、今年五月みこころセンターに移転し今日に至るまで色々とお世話になった方々に感謝状を贈呈、第一部の式典を終えました。

引続きティーパーティーでは来賓、関係者紹介やスピーチがあり最後に「開局一周年記念・拡げよ

う賛助の輪」のアピールがあり盛会のうちに散会しました。なおティーパーティーに用意されたケーキ等は全て有志の皆さんによって準備されたもので、この手造りパーティーは心暖まるなごやかな雰囲気でした。

次の方々に感謝状を贈呈しました。

## (団体)

- ・ 聖霊病院殿
- ・ 聖心布教会殿
- ・ 日本電信電話株式会社名古屋支社殿
- ・ 南山短期大学人間関係研究センター殿
- ・ 日本キリスト教団名古屋中央教会殿
- ・ 共栄建設株式会社殿
- ・ 株式会社総合企画殿
- ・ 中日新聞社会事業団殿

## (個人)

- ・ 山本好明殿
- ・ 桑原茂殿
- ・ 神野明殿
- ・ 杉浦日出夫殿
- ・ 小崎弘雄殿
- ・ 生田和夫殿
- ・ 津田能人殿

(運営委員)

## 大津橋だより

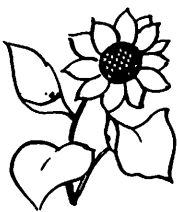
4月1日新年度初め、新体制で出発。6日名古屋中央教会でアピール。8日第一期相談員認定式(85名を認定)講演斉藤友紀雄氏。10日財務委員会(財政の長期見通しを話し合う)。12日音楽会実行委員会。15日ボランティア部リーダー会。21日運営委員会。22日新センターへ移転宣伝のため広報について話し合い。担当編成係。

5月6日資源台帳係。音楽会実行委員会(チケットが予定以上売れていることの調整)。7日浜松いのちの電話より見学(本年7月開局)。訓練委員会。10日津田能人氏バイブオルガンコンサート(於五反城教会)報告は本文で。11日みこころセンター開所式。12日ボランティア部リーダー会。14日第四回理事会(くわしくは本文で)。16日一年間のボランティア保険に全員加入。20日、22日相談員オリエンテーション(新しいシステムなどの説明)。24日新センターへ移転(くわしくは本文で)。25日午前10時、新しい番号で相談電話受付開始。この2〜3週間は新センターへの移転にともなう雑務が山積し、多忙な日々であった。ボランティアの皆様もご苦労様でした。26日運営

委員会。30日訓練関係近畿地区ミーティング。

6月3日財務委員会。4日訓練委員会。5日ボランティア新聞係。9日ボランティア部リーダー会。13日日本いのちの電話連盟理事会(於東京)正式加盟を承認された。15日日本キリスト教団愛知西地区総会でアピール。16日運営委員会。17日資源台帳係。21日財務話し合い(賛助会員拡大的のため)。25日統計に関する近畿地区ミーティング(於名古屋)。26日三重県教育委員会来訪(第一次)。7月2日相談員自主研修「一年を振り返って」3日財務委員会。三重県教育委員会来訪(第二次)5日開局一周年・移転記念式典(出席80名)。11日近畿地区主事会(於関西)。13日第三期生募集メ切り。14日運営委員会。15日訓練委員会。資源台帳係。19日第三期生面接。

(佐藤)



＝募＝金＝報＝告＝ (1986年4月1日～1986年7月31日) (順不同・敬称略)

賛助会員(A)

竹内泰子	稲垣芳子	福田昌男	日比野	かづを	早瀬	川本	重男	梶原	寿夫
三田村	岡田	文珠	植松	従順	榎芝	本原	久美	惣ト	良加
志村	小川	加藤	加藤	順道	戸竹	原田	ゆかり	佐藤	口真
津田	土橋	山本	塚古	義初	藤中	谷川	安と	山	雪の
柳原	宮木	榎中	渡島	麗史	西	吉川	とき	森	野村
細井	高幸	畑中	島	巳子		村	子	川	茂也
秋重	谷雄	木喜	渡	朗			司	西	敏正
神言	高橋	相	渡				清	沢	信
伊左	匿名		渡						
治正	2名		渡						

合計 54口 540,000円

賛助会員(B)

島田明子	市原豊子	村松正義	梶原久江	桐山	山井	江	江	藤	すみ
佐藤一夫	今井謙吾	三輪波正子	谷野広子	今井	倉勝	彦子	文子	村	み
田口保	池住圭	名波よね子	中野柱綾	鎌倉	田	子	子	日本	達郎
津田とみ子	岩田邦子	菊植田よ	内堀水藤	山田	藤	子	恵子	希望	夫
加藤里子	長若成豊	植田久島	塚水藤	佐藤	澤	子	あさ	宮	英延
腰飯須	比呂子	和小平	児	梅貝	沼野	一	子	石	弘
藤よし	豊田	小島	久	河	登喜	喜	登	三	淑

合計 47口 234,000円

賛助会員(C)

西島悦代	住宮川剛	川瀬直美	鈴木敦子	印石	藤	子	伊	藤	タカ
吉村来万	能登み子	川端一子	武早加山	石木山	田村本	代子	渡林	藤	里
河村公孝	山塚本	足若山	加山	佐藤	藤	彦子	矢満	田	郁
後藤孝一	日本キリスト教	山本善太郎	塚本	植木	木	一	鈴	木	篤
鈴木道子	桃山教会婦人会	津ノ国	野下川	富相	樫馬	貞次郎	松	本	和
多和田いみ子	大竹中平	渡秋斎	矢森吉水	相冲	本	み	片	山	悦
櫻尾真治子	松光	藤野	湯	工山	藤	蔵子	葛高	井	義
河武高須	加藤	佐	野	田	田	子	佐	尾	速
									三

合計 65口 207,000円

寄付金(個人)

飯塚政子	中川幸子	内川正邦(4)	柳原喜代子	楠西忠雄(4)	日置康彦
佐々木さと子(3)	村三郎(4)	葛原代子	長谷川豊志	村善四郎	安藤和夏
澤田孝子	上川クリスティーナ	中野明美	郡山健次郎	北村聡	藤田直枝
黒沢新二郎	山口幸男	神谷篤二	本田健次・ヤス子	小幡節	近藤川
清水嘉作・真理子	久野ひろ子	矢満田	小島ミハナ	太喜久雄	小川
服部みや子	土方つや子	吉崎弘	木島正		

合計 45口 309,700円

発行  
「名古屋いのちの電話」  
事務局  
〒460  
名古屋市中区丸の内三丁目  
6番43号  
みこころセンタービル4F  
TEL <052> 971-5181  
振替 名古屋 1-53758  
発行責任者 相馬信夫

寄付金(団体)

日本キリスト教団名古屋中央教会	名古屋福音伝道教会	名古屋キリスト教協議
会 カトリック東山教会・婦人会	中部電力株式会社	名古屋鉄道株式会社
東邦ガス株式会社	チッポラの会	カトリック一宮教会(4)
日本キリスト教団名古屋中央教会	日本キリスト教団高蔵寺ニュータウン教会婦人	合資会社吉美屋
会 日本バプテスト連盟瑞穂キリスト教会		

合計 17口 540,006円

開局一周年記念式典祝金

恒川新市	猪村工業株式会社	西村清	ピーター・チョーク(聖心布教会)	長
谷川美恵	畑中孝	関西いのちの電話	カトリック名古屋教区信徒使徒職協議	会
会 愛の実行運動事務局	加藤慎二	川津錦子	梶原寿	

合計 12口 140,000円

以上の通り心よりの感謝をもってご報告申し上げます。なお報告もれ、誤記などがありましたらお手数ですが事務局までお知らせ下さい。